

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第50週は新規感染者の報告はありませんでした。現在の低い水準を維持するため、ワクチン接種者も含めて、マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気などの基本的な感染防止対策を徹底しましょう。

2 咽頭結膜熱

定点当たり0.63人と、増加しています。咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、5～7日の潜伏期間の後、発熱、喉の痛み、結膜炎などの症状が出現します。手洗いの励行、タオルの共用は避けるなど、感染予防を心がけましょう。

3 感染性胃腸炎

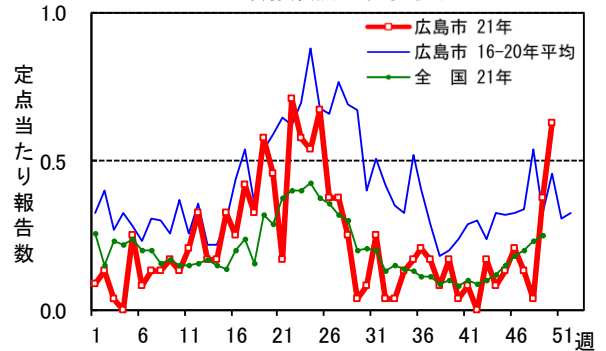
定点当たり5.96人の報告がありました。冬季はノロウイルス等による感染性胃腸炎が多くなります。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒など感染予防対策を徹底しましょう。

4 梅毒

今年の累計報告数は98件となり、昨年の年間報告数(71件)を大きく超えています。また、全国の累計報告数は第48週の時点で7,134件(速報値)となり、1999年の感染症法施行以降、最多であった年間報告数7,007件(2018年)を超えています。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがありますので、早期発見・早期治療が大切です。

【参考】保健センターの無料・匿名の梅毒検査(広島市) <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>

咽頭結膜熱の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	6.73		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.12	
小児科	咽頭結膜熱	15	0.63	0.46	▲	小児科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.37	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.54	2.25		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	143	5.96	8.72	▶	眼科	流行性角結膜炎	1	0.13	0.63	
	水痘	6	0.25	0.46		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	47	1.96	0.64	▲		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	-	-	0.24			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.09	
	突発性発しん	13	0.54	0.32			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	14	0.58	0.23			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	▶	▶	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	21	10歳未満・O165、30歳代・O166
4	レジオネラ症	1	36	70歳代
5	梅毒	1	98	30歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レン サ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎 (ロタウ イルス)
報告数	第46週	1	5	10	78	1	53	-	6	15	-	2	-	8	-	-	-	-	-
	第47週	-	3	12	82	1	53	-	6	6	-	1	-	2	-	-	-	-	-
	第48週	-	1	11	107	1	70	-	5	9	-	1	1	3	-	-	-	-	-
	第49週	-	9	9	151	2	85	1	12	13	-	2	-	4	-	-	-	-	-
	第50週	-	15	13	143	6	47	-	13	14	-	1	-	1	-	-	-	-	-
定点 当たり	第46週	0.03	0.21	0.42	3.25	0.04	2.21	-	0.25	0.63	-	0.08	-	1.00	-	-	-	-	-
	第47週	-	0.13	0.50	3.42	0.04	2.21	-	0.25	0.25	-	0.04	-	0.25	-	-	-	-	-
	第48週	-	0.04	0.46	4.46	0.04	2.92	-	0.21	0.38	-	0.04	0.13	0.38	-	-	-	-	-
	第49週	-	0.38	0.38	6.29	0.08	3.54	0.04	0.50	0.54	-	0.08	-	0.50	-	-	-	-	-
	第50週	-	0.63	0.54	5.96	0.25	1.96	-	0.54	0.58	-	0.04	-	0.13	-	-	-	-	-
全国	第48週	0.01	0.23	0.61	5.24	0.16	1.22	0.01	0.31	0.37	0.03	0.25	-	0.21	0.01	0.02	0.02	-	-
	第49週	0.01	0.25	0.68	6.65	0.14	1.14	0.01	0.33	0.29	0.03	0.30	-	0.17	0.02	0.01	0.01	-	0.01

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第50週(12月13日～12月19日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0

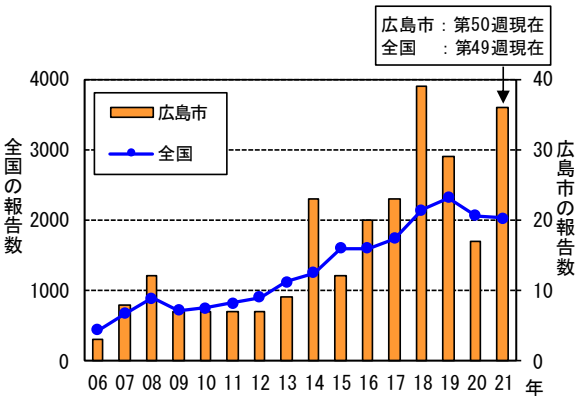
【累計報告数(12月19日)現在】 ※2020年からの累計報告数です。

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
648	1,185	3,226	2,071	2,065	1,646	989	750	543	67	13,190

「風邪かな?」と感じたら、かかりつけ医や
コールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566 に連絡・相談しましょう。

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ
「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】広島市におけるレジオネラ症の発生動向について



【参考】
レジオネラ症Q&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html
レジオネラ症とその予防対策(広島市)
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2990.html>

2021年の累計報告数が第50週で36件となりました。これは、1999年から始まった感染症法に基づく調査で最多の2018年(第50週時点で35件)とほぼ同様のペースです。

レジオネラ症は、河川や土壌など自然界に生息するレジオネラ属菌による感染症で、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)などを吸入することで感染します。

病型として、重症の肺炎を引き起こす「レジオネラ肺炎(在郷軍人病)」と、一過性で自然に改善する「ポンティアック熱」が知られています。

レジオネラ肺炎は2～10日の潜伏期間の後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難などの症状が出現します。新生児や高齢者、免疫力の低下した人は、肺炎を起こす危険性が高く、特に注意が必要です。

国内では、循環式浴槽や加湿器の使用、入浴施設による感染事例の報告があり、適切な維持管理が必要です。また、屋外作業中に、舞い上がった土ぼこりを吸い込むことで感染することもあるため、作業に従事する際には、マスクを着用しましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp